



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年1月31日

上場会社名 クボテック株式会社
 コード番号 7709 URL <http://www.kubotek.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 久保哲夫

問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 記虎政史

TEL 06-6443-1815

四半期報告書提出予定日 2023年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|---------------|-----|------|------|---|------|---|----------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2023年3月期第3四半期 | 956 | 27.9 | 161 | | 145 | | 138 | |
| 2022年3月期第3四半期 | 747 | 1.7 | 110 | | 111 | | 53 | |

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 211百万円 (%) 2022年3月期第3四半期 69百万円 (%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益 |
|---------------|-------------|------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2023年3月期第3四半期 | 10.03 | |
| 2022年3月期第3四半期 | 3.87 | |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|---------------|-------|-----|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 2023年3月期第3四半期 | 1,842 | 764 | 41.5 | 55.55 |
| 2022年3月期 | 2,091 | 976 | 46.7 | 70.94 |

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 764百万円 2022年3月期 976百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年3月期 | | 0.00 | | 0.00 | 0.00 |
| 2023年3月期 | | 0.00 | | | |
| 2023年3月期(予想) | | | | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-------|-----|------|---|------|---|---------------------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 1,100 | 8.1 | 290 | | 300 | | 315 | | 22.88 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正につきましては、本日公表しております「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|-------------------|------------|--------------|------------|--------------|
| 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2023年3月期3Q | 13,830,000 株 | 2022年3月期 | 13,830,000 株 |
| 期末自己株式数 | 2023年3月期3Q | 62,160 株 | 2022年3月期 | 62,159 株 |
| 期中平均株式数(四半期累計) | 2023年3月期3Q | 13,767,841 株 | 2022年3月期3Q | 13,767,841 株 |

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 2 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 3 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 3 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 5 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 7 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 7 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 7 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 7 |
| (追加情報) | 7 |
| (セグメント情報等) | 7 |
| 3. その他 | 9 |
| (継続企業の前提に関する重要事象等) | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から持ち直しの動きを見せているものの、不安定な国際情勢が長期化し、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響の懸念は払拭されず、先行き不透明な状況が続いております。フラットパネルディスプレイ (FPD) の分野におきましては、FPDメーカーの設備投資に慎重な姿勢が見られ、厳しい受注環境が続きました。

このような環境の中、当社グループは、品質や採算を重視した製品戦略で受注の確保に注力してまいりました。この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高956百万円（前年同四半期比27.9%増）、営業損失161百万円（前年同四半期は営業損失110百万円）、経常損失145百万円（前年同四半期は経常損失111百万円）となり、連結子会社1社の解散及び清算に伴い特別利益に為替換算調整勘定取崩額15百万円、特別損失に係る会社整理損3百万円をそれぞれ計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は138百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失53百万円）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

日本セグメントでは、主力製品である画像処理外観検査装置の売上が増加しましたが、売上原価の増加により損失が増加しました。この結果、売上高は545百万円（前年同四半期比36.7%増）、セグメント損失は183百万円（前年同四半期はセグメント損失81百万円）となりました。

米国セグメントでは、CAD/CAMソフト等の売上が現地通貨ベースでは減少しましたが、円安の影響で円貨ベースでは増加しました。この結果、売上高は400百万円（前年同四半期比25.9%増）、セグメント損失は54百万円（前年同四半期はセグメント損失10百万円）となりました。

韓国セグメントでは、画像処理外観検査装置の売上が減少しました。この結果、売上高は10百万円（前年同四半期比65.5%減）、セグメント損失は21百万円（前年同四半期はセグメント損失19百万円）となりました。

なお、韓国セグメントであるKUBOTEK KOREA CORPORATIONは、当第3四半期連結会計期間において清算終了したことにより連結の範囲から除外し、連結子会社であった期間の損益計算書のみ連結しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ249百万円減少しました。流動資産は現金及び預金の減少375百万円、売上債権の増加106百万円、棚卸資産の減少33百万円などにより、305百万円減少しました。固定資産はソフトウェアの増加により、56百万円増加しました。

負債は、前連結会計年度末に比べ37百万円減少しました。流動負債は仕入債務の増加49百万円、契約負債の増加29百万円などにより、89百万円増加しました。固定負債は長期借入金の減少132百万円などにより、126百万円減少しました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失138百万円の計上、為替換算調整勘定の減少73百万円により、純資産合計が211百万円減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の動向を踏まえ、2022年5月13日に公表いたしました2023年3月期通期連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日公表しております「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日) |
|----------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,413,319 | 1,038,061 |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | 163,527 | 269,031 |
| 電子記録債権 | 34,741 | 35,378 |
| 商品及び製品 | 1,983 | 14,798 |
| 仕掛品 | 207,399 | 152,728 |
| 原材料及び貯蔵品 | 62,751 | 70,951 |
| その他 | 25,594 | 23,326 |
| 貸倒引当金 | △8,819 | △9,179 |
| 流動資産合計 | 1,900,498 | 1,595,096 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| その他(純額) | 554 | 10,032 |
| 有形固定資産合計 | 554 | 10,032 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 163,927 | 217,712 |
| その他 | 0 | 0 |
| 無形固定資産合計 | 163,927 | 217,712 |
| 投資その他の資産 | | |
| その他 | 26,915 | 19,711 |
| 貸倒引当金 | △173 | △173 |
| 投資その他の資産合計 | 26,742 | 19,538 |
| 固定資産合計 | 191,224 | 247,283 |
| 資産合計 | 2,091,722 | 1,842,380 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 102,553 | 151,600 |
| 短期借入金 | 215,658 | 226,656 |
| 未払法人税等 | 12,351 | 5,667 |
| 契約負債 | 241,026 | 270,554 |
| 賞与引当金 | 3,550 | 1,600 |
| その他 | 99,538 | 107,857 |
| 流動負債合計 | 674,678 | 763,935 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 408,740 | 276,248 |
| 契約負債 | 5,620 | 8,974 |
| 退職給付に係る負債 | 23,233 | 25,704 |
| その他 | 2,762 | 2,762 |
| 固定負債合計 | 440,356 | 313,690 |
| 負債合計 | 1,115,034 | 1,077,625 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,951,750 | 1,951,750 |
| 利益剰余金 | △915,831 | △1,053,966 |
| 自己株式 | △81,717 | △81,717 |
| 株主資本合計 | 954,201 | 816,065 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| 為替換算調整勘定 | 22,486 | △51,311 |
| その他の包括利益累計額合計 | 22,486 | △51,311 |
| 純資産合計 | 976,687 | 764,754 |
| 負債純資産合計 | 2,091,722 | 1,842,380 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日) |
|---------------------|--|--|
| 売上高 | 747,868 | 956,830 |
| 売上原価 | 424,208 | 608,493 |
| 売上総利益 | 323,659 | 348,336 |
| 販売費及び一般管理費 | 434,112 | 509,630 |
| 営業損失(△) | △110,452 | △161,293 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 93 | 29 |
| 受取配当金 | 135 | 15 |
| 為替差益 | 4,320 | 18,197 |
| その他 | 29 | 947 |
| 営業外収益合計 | 4,578 | 19,188 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 4,598 | 3,048 |
| その他 | 539 | 492 |
| 営業外費用合計 | 5,137 | 3,540 |
| 経常損失(△) | △111,011 | △145,645 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | - | 30 |
| 投資有価証券売却益 | 1,278 | - |
| 債務免除益 | 60,374 | - |
| 為替換算調整勘定取崩額 | - | 15,137 |
| 特別利益合計 | 61,652 | 15,168 |
| 特別損失 | | |
| 関係会社整理損 | - | 3,369 |
| 特別損失合計 | - | 3,369 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △49,358 | △133,846 |
| 法人税等 | 3,856 | 4,288 |
| 四半期純損失(△) | △53,215 | △138,134 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △53,215 | △138,134 |

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純損失(△) | △53,215 | △138,134 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △756 | - |
| 為替換算調整勘定 | △15,717 | △73,798 |
| その他の包括利益合計 | △16,473 | △73,798 |
| 四半期包括利益 | △69,688 | △211,933 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △69,688 | △211,933 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | - | - |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症(以下、「本感染症」という。)に伴う当社グループへの直接的な影響は、主に本感染症による外出自粛等に伴う当社グループの営業活動の制限や取引先の投資需要の低迷などによる売上減少であります。一方で、本感染症が一般的な経済活動や事業環境に及ぼす影響は、広範かつ多岐にわたると考えられ、また、その今後の広がり方や収束時期等を含め、当社グループへの影響を将来にわたって定量的に予想することは極めて困難であります。

したがって、当社グループは、2023年3月期中は当該影響が継続するものとの仮定を前提とし、当社グループが現時点で把握できる最新の情報等を踏まえて、貸倒引当金等の会計上の見積りを行っております。

なお、本感染症の収束時期等の変動によって、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 合計 |
|-----------------------|---------|---------|---------|----------|
| | 日本 | 米国 | 韓国 | |
| 売上高 | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 399,104 | 318,083 | 30,680 | 747,868 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 157,712 | — | 13,980 | 171,692 |
| 計 | 556,817 | 318,083 | 44,660 | 919,561 |
| セグメント損失(△) | △81,230 | △10,594 | △19,668 | △111,493 |

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

| 損失 | 金額 |
|--------------------|----------|
| 報告セグメント計 | △111,493 |
| セグメント間取引消去 | 4,050 |
| 内部利益の調整額 | △3,954 |
| 貸倒引当金の調整額 | 944 |
| 四半期連結損益計算書の営業損失(△) | △110,452 |

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | 合計 |
|-----------------------|----------|---------|---------|-----------|
| | 日本 | 米国 | 韓国(注) | |
| 売上高 | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 545,675 | 400,578 | 10,575 | 956,830 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 198,306 | — | 12,228 | 210,535 |
| 計 | 743,982 | 400,578 | 22,804 | 1,167,365 |
| セグメント損失(△) | △183,468 | △54,987 | △21,576 | △260,031 |

(注) 「韓国」セグメントであるKUBOTEK KOREA CORPORATIONは、当第3四半期連結会計期間において清算終了したことにより連結の範囲から除外し、連結子会社であった期間の損益計算書のみ連結しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

| 損失 | 金額 |
|--------------------|----------|
| 報告セグメント計 | △260,031 |
| セグメント間取引消去 | 4,970 |
| 内部利益の調整額 | 2,243 |
| 貸倒引当金の調整額 | 91,524 |
| 四半期連結損益計算書の営業損失(△) | △161,293 |

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで4期連続して営業損失を計上し、また受注残高が著しく減少しておりました。特定の市場・顧客の設備投資及び特定の顧客からの受注動向によって、業績の変動が避けられず継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりました。当第3四半期連結累計期間においても営業損失を計上し、厳しい受注環境が続いていることから、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、当該事象等を解消するため事業構造の改革と収益拡大に取り組んでおり、重要な資金繰り懸念もないことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

当該事象等を解消するための具体的な施策は、次のとおりであります。

画像処理外観検査装置においては、特定の市場や顧客の設備投資動向、受注に依存するこれまでの状況から、機能性フィルムや次世代パネル検査装置などの品質や採算を重視した市場、製品を収益の柱とする事業への転換を進めております。

3Dソリューションシステムにおいては、米国市場で新規顧客を開拓し、当社エンジンを採用した3次元比較検証ソフトウェアなど新製品の開発と販売拡大に積極的に注力しています。

メディアネット機器では、市場ニーズの高い監視分野のシステムや放送局向け4K・8Kに対応した映像伝送装置の販売拡大に取り組んでおります。

生産に関しては工場での業務の効率化を図り、経費削減によって、生産性の改善を進めております。

さらに新規事業として次世代フライホイールを用いた大出力発電装置やオーディオ事業の早期事業化を推進してまいります。